

2018年11月16日

## GKP北海道 下水道講演会 報告書



開催日時：平成30年11月9日（金） 15:00～17:30

会場：オーク札幌ビル（地下1階会議室）

参加人数：GKP北海道会員37名（うち新規3名）、自治体関係者3名、報道関係者2名  
（計42名）、（情報交換会39名）

### 内容

司会進行 坂田 幹事長

- ・開会挨拶 高橋 会長
- ・講演会

(1) 第一部「フランスにおける財政制度とPPP等について」

第二部「BISTRO 下水道」

(15:40～16:20)

公益財団法人 日本下水道新技術機構技術研究所 所長 加藤 裕之 様

(2) 「じゅんかん育ち下水道の取り組みについて」

(16:30～17:10)

岩見沢市汚泥利用組合 組合長 峯 淳一 様

- ・閉会挨拶 川上 副会長



GKP北海道 坂田幹事長 挨拶



GKP北海道 高橋会長 挨拶



講演会 (1) 加藤 様



講演会 (2) 峯 様

【講演会概要】

(1) ①第一部「フランスにおける財政制度と PPP 等について」



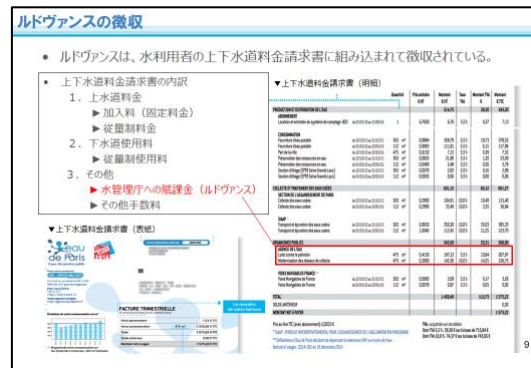
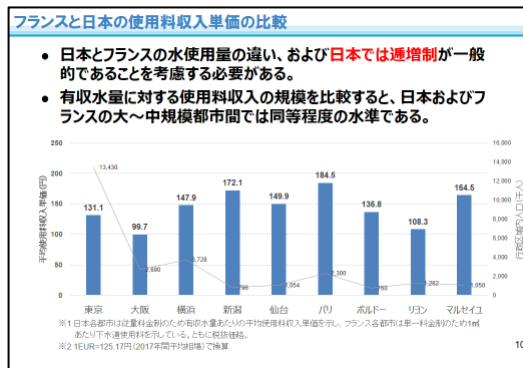
フランスの下水道事業の基礎情報

- フランスにおける上下水道事業は、**コミュン**と呼ばれる地方自治体もしくはその**広域連合体**により運営されている。
- フランスには**3万5千を超えるコミュン**が存在しており、平均で数千人、小さいものは数百人規模のコミュンも多く存在する。
- フランスの人口は日本の半数程度であるが、汚水処理量は20%程度であり、水使用量が比較的少ない。

	フランス	日本
国土面積	54万4千 km <sup>2</sup>	37万8千 km <sup>2</sup>
人口	約6,718万人	約1億2千万人
年間降雨量	パリ: 637mm	東京: 1,664mm
コミュン(市町村)数	35,416	1,718
下水道事業者数	15,543	1,188
下水道処理人口普及率	82%	78.3%
年間汚水処理量	約3,200 百万m <sup>3</sup>	約14,604百万m <sup>3</sup>

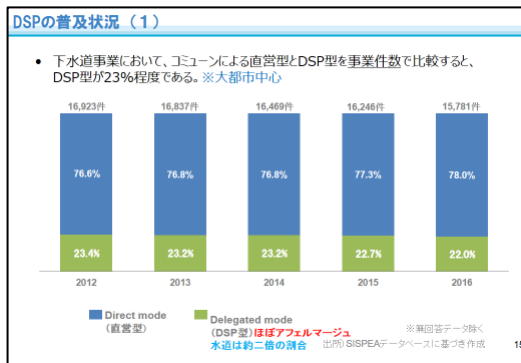
概要：・環境連帯移行省が管轄する水管理庁を中心に、流域レベル、地方自治体レベルで様々なプレーヤーが下水道事業に携わっている。

・水処理費用は、水利用者から徴収される使用料で賄われるとともに、水管理庁が水利用者に付加する目的税（ルドヴァンス：使用料の1/3～1/4）を原資とした水環境保全を目的とする補助制度が確立している（下水道への補助が大半：新設・改築及び技術開発）。



・フランスの DSP（公共サービスの民間委託）は、労働保障、官をサポートするコンサルタント、及び KPI（Key Performance Indicator）による評価により支えられており、同時に官側の組織の堅持も図られている。

・下水道事業における DSP の普及状況は全体の約 23%程度であり、その多くはアフエルマージュ（初期投資や大規模な建設投資を含まず、主に利用者からの料金収入で経費回収する）。



KPIの意義を考える

共通したKPIの設定およびその開示  
 事業運営状況やDSPのチェック

サービスの質の、事業者間の比較。官と民、民と民、社内比較

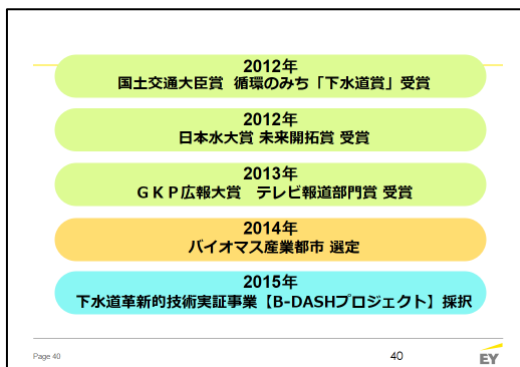
DSPの継続契約の総合評価は、コストよりもKPIとの発言も

水管理庁は、KPIを補助金配分で考慮  
**自治体の技術継承・組織堅持の手段としても**

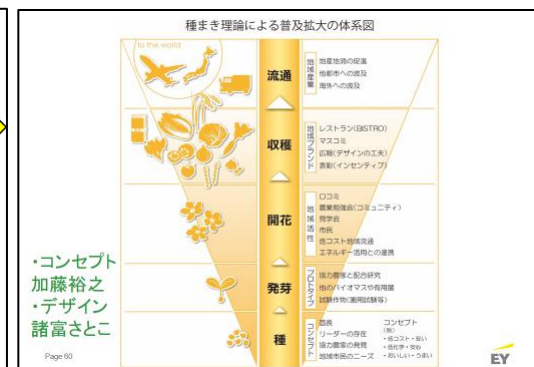
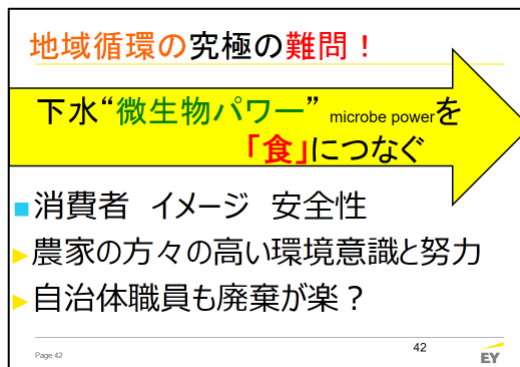
② 第二部「BISTRO 下水道」



- 概要：
- ・下水道が食に貢献できる大きなポテンシャルを有していることに着目し、平成25年に「BISTRO 下水道推進戦略チーム」が立ち上がった。
  - ・佐賀市は「イノベーション普及理論」によりこれまで数々の賞を受賞。

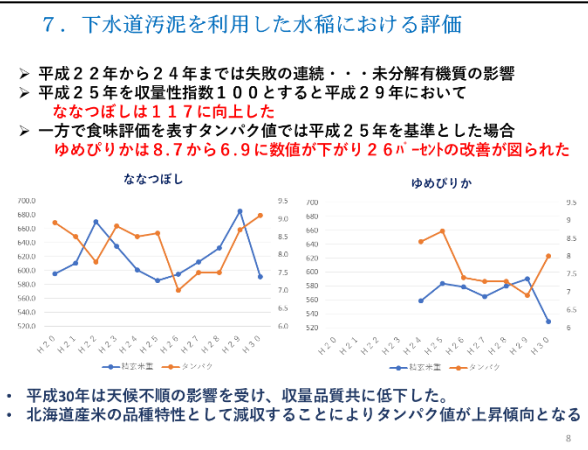
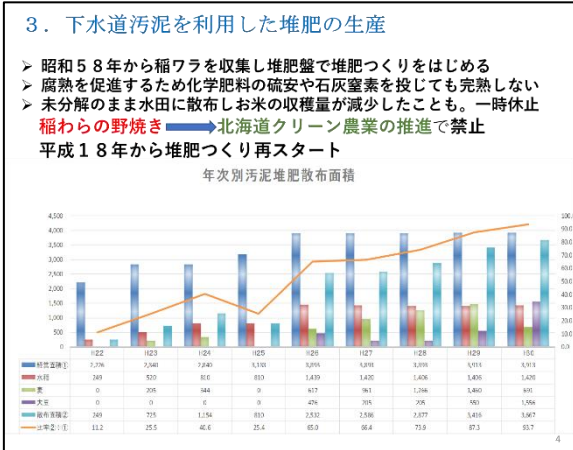


- ・地域循環の最大の課題は、下水が持つ力をいかにして「食」につなげるかである。
- ・課題解決のカギは、農家の方々の高い環境意識と努力。



(2) 「じゅんかん育ち下水道の取り組みについて」

概要：岩見沢地区汚泥利用組合は、市と連携し、下水道汚泥を利用した堆肥の生産に取り組んでいる。組合員自らが収量と品質を向上させるための研究を行い、下水汚泥肥料の利用方法を仲間に普及し、利用者を増やしている。これからも「じゅんかん育ち」を通じ、資源循環の必要性をPRし続けていきたい。



### 8. 効果の高い下水道肥料をより多くの理解者へ

- 岩見沢市汚泥利用組合「循環の道下水道」受賞を契機に  
地方紙での記事掲載・FMはまなす等で紹介される  
利用効果の高い下水道肥料の散布希望農業者が増え始める
- 下水道汚泥の評価  
  - 農業者 秋まき小麦・大豆の生産で収量向上性が図られた(直近5カ年で15〜20%増収)
  - 消費者 広報活動を通じ下水道資源を利用し農業生産がされていることを知り、関心が高まりはじめた。
- 北農総研北海道立中央農業試験場 技術支援会議の試験テーマとなる  
岩見沢市農政部が提案した「未分解有機物の腐熟促進に対する下水道汚泥の効果」がH30空知総合振興局支援会議の実証試験テーマとなる

### 11. 展望と課題

- 下水道資源を使った循環型農業の推進  
農業者は生産技術はあっても販売力は弱い  
「じゅんかん育ち」を多くの方々に伝える展開が必要
- 資源循環の必要性を伝える努力 人から人へ  
日高振興局産業振興部長の徳地さん(同級生)に、お話ししたところ  
「北海道特産品こだわり隊」が興味があり取り扱いたいとの事  
～みんな下水道資源をつかっていること言葉にしてみよう～
- 海外への輸出  
岩見沢の米穀商社の取扱でシンガポールのホテル・レストラン向けに輸出をはじめますが、「じゅんかん育ち」を広報する前提で協議中
- 国交省・GKPと「じゅんかん育ち」に取り組む農業のネットワーク  
下水道資源を利用する農業者の交流やネットワークをつくり、農業の多面的機能の発揮や生態系などの環境保全に配慮した農業生産に、下水道資源を取り入れた資源循環型農業の要素を取り入れ、他国には類を見ない農業と社会構築に向かってはどうでしょうか



(当日、峯様より参加者に配布頂いた「じゅんかん育ち」のお米です。)



講演会の様子



GKP 北海道 川上副会長 挨拶



集合写真（手前は峯さんからいただいた「じゅんかん育ち」のお米）



以上